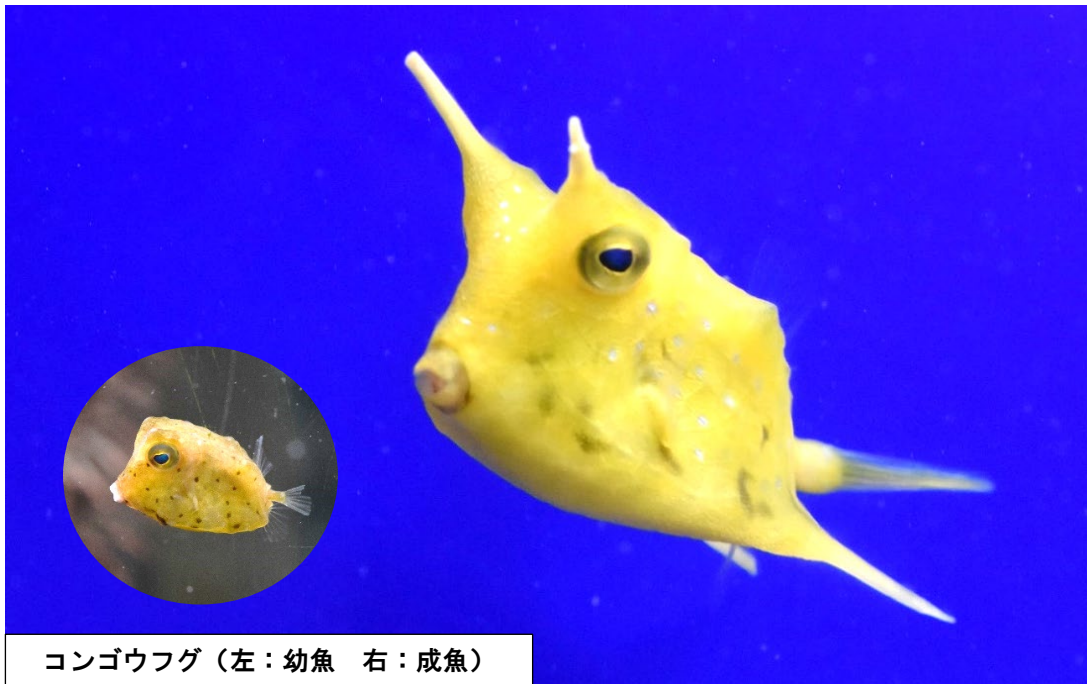


今月の
いいね!

コンゴウフグ



コンゴウフグ (左: 幼魚 右: 成魚)

【名前】

コンゴウフグ (フグ目ハコフグ科)

【すむ場所】

主に暖かい海にすむ。幼魚は海流に乗り青森県付近まで現れることがある。

【大きさ】

大きくなると体長 30cm ほどになる。

【当館で見られる場所】

きらきら★ラグーン

【特ちょう】

幼魚と成魚では姿形が違い、成魚は牛の角のような棘を持ち、英語で Longhorn Cowfish (長い角の牛魚) と呼ばれます。皮膚に強い粘液毒を持ちます。

【担当学芸員から一言】

今年の干支の“丑(うし)”にちなんだ魚です。その愛らしい姿を見に来てください。(K.Y)

トピック

一富士二鷹三茄子

皆さん今年は初夢を見ましたか。初夢というと「一富士二鷹三茄子 (いちふじにたかさんなすび)」ということわざがあり、初夢でこれらのものを見ると縁起が良いとされています。このことわざの由来は、一説には徳川家康が好んだもので、茄子は静岡市の折戸地区で採れる折戸なすであったとされています。私は残念ながら、初夢ではこれらを見ることができませんでしたが、縁起を担ぎ当館裏の海岸から富士山を見てきました。皆様に幸多き年となりますように、本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。(Y.I)



当館裏の真崎海岸から見た富士山

アカボウクジラ骨格標本を展示



脂を抜く作業



アカボウクジラ骨格展示

2020年8月17日にアカボウクジラのすべての骨を掘り出しました。複数の骨が一緒になった肉の塊のまま埋めた部位もありますので、掘り出したときに目印の番号札がついていない骨もあります。それぞれの骨の番号を再度確認し、番号のない骨には新しく番号を付けていきます。骨に付いた肉はきれいに分解され、臭いもほとんどない状態でした。掘り出した骨に水を流しながら、タワシや歯ブラシなどで洗浄しました。ただ、頭の骨の内部には脳が残っており、腐敗して強い臭いを放っていました。ドロドロになっていて、それを取り除くのは一苦労でした。さらに、流水洗浄した骨を塩素系の薬を薄めた水に2日間浸し、取り切れなかった肉や骨に付いた小さな生物を取り除きました。その後、約2ヶ月をかけて、入念な洗浄、脂抜き、漂白などを行いました。

骨を並べる時は、まるで大きなパズルの組み立ての様にうまく組み合うかドキドキしました。展示場にきれいになったアカボウクジラの全身骨格を整え、解説パネルで体の特徴や今回のアカボウクジラの骨格の特徴をお伝えしています。また、アカボウクジラ以外のクジラやその打ち上がりについても紹介しています。身近な海、駿河湾に棲むアカボウクジラ、その骨格標本を展示しています。(S.T)

マックローキーズ・アネモネフィッシュ

マックローキーズ・アネモネフィッシュは、オーストラリアの東方沖にあるロードハウ島とノーフォーク島にのみ分布する珍しいクマノミ類で、全長12cmほどになります。クマノミと聞くとオレンジ色や黄色といった鮮やかな色を想像するかもしれませんが、本種は黒の濃い体色が特徴です。ちなみに、真っ黒だからマックローキーズという名になったわけではなく、本種の新種記載に用いられた標本がA.R. McCulloch氏により採集されたことに由来します。

2020年9月、マックローキーズ・アネモネフィッシュを飼育している東海大学の卒業生から、孵化(ふか)仔魚を譲っていただく機会を得ました。他のクマノミ類と同様、本種も卵を岩に産み付け、孵化するまで親が世話をします。そこで、孵化予定日に当館の職員が出向き、仔魚を回収しました。全長3mmほどの小さな仔魚が輸送に耐えられるか心配でしたが、多くの個体が無事に当館まで到着し、飼育を開始できました。丁寧に世話したかいもあり、今は3cmほどに成長した幼魚を一般公開しています。以前から飼育している成魚と比べると、幼魚の体の模様は少し異なっており、第2背びれと尾びれを縁取る白いラインがおしゃれです。マックローキーズ・アネモネフィッシュはそもそも流通個体が少ない種で、さらに幼魚となるとまずお目にかかれませんが、当館でも今しか見られないその貴重な姿を、ご覧になってください。(S.T)



成魚



一般公開中の幼魚

※生物の状況により展示を急遽中止する場合があります。予めご了承ください。